

被災地に寄り添う ―下― 田澤 隆



本県の陸上自衛隊第9音楽隊の慰問演奏に笑顔を見せる子どもたち＝田老地区の避難所

ボランティアは、自と、名簿に名前を記入
衛隊並みの心構えが必要
要な分野もあれば、本
当に小さなボランティア
アもあります。小さな
子供のお世話も立派な
ボランティアですし、
掃除や食事のお世話、
支援物資の仕分け作業
など、そこら辺に仕事
が転がっている感じで
す。

ただ受け入れ側が他

の業務に追われて構っ
てられないだけとい
うのが本音ですから、
「自己完結」ができる
人たちは、「勝手にお
手伝いして行きます」

です。

避難所ではさまざま
な慰問活動も行われ
ています。高校の音楽部、
自衛隊の音楽隊、流し
のギター弾きなどの演
奏活動や、縁日で活躍

長期的な支援が必要

しているたこ焼き・お
好み焼き屋などが各被
災地を回っています。
大鰐町からは名物の温
泉もやしを使った豚汁
がふるまわれていまし
た。日本各地から支援
の手が伸べられている
ことが実感できます。
今回の震災は一過性の
ものではありませんか
ら、5年、10年と長期
的な支援が必要です。

田老地区では5月15
日から、念願の仮設住
宅の入居が始まりまし
た。避難所生活も一区
切りですが、これから
の生活を考えると問題

は山積みです。
電子レンジや炊飯
器、冷蔵庫、テレビな
どは各戸に1台ずつ支
給され、タオル類、洗
面器、せっけんやシャ
ンプー、歯ブラシなど
は支援物資から配給さ
れます。しかし、仮設
住宅の収納スペースが
小さいため、衣装ケー
スやタンスなどで工夫
しなければなりません
し、他にも必要な日
用品がでてきます。

被災者は、早く自分
のお金で買い物をした
いと願っています。自
分の趣味の世界も取り
戻したいところです。
長期にわたる避難所生
活で疲労やストレスが

蓄積されている中、支
援物資は非常にありが
たいことですが、すべ
てが自分の好みという
わけではありません。
被災者は自分が欲しい
もの、好みの物をそろ
えたいと願っています
から、一日でも早く義
援金を届けてあげてほ
しいと思います。今こ
そ政治家の腕の見せど
ころですから、与野党
が団結して被災者を救
ってほしいと願いま
す。

次の段階の支援とし
て、私が今手掛けてい
るのは、被災した人な
らではの知
恵を生かし
た防災関連

の品物や、伝統工芸を
生かした支援です。避
難所に設けられたミシ
ンを使って、端切れや
支援物資を利用した民
芸品を制作し、販売で
きないか模索していま
す。

農業や漁業分野で
も、共同経営あるいは
会社組織として運営
し、大手や地元小売店
と提携してもらうこと
を考えています。特別
コーナーでの販売を通
じて売り上げを被災者
に還元するシステムに
し、農家や漁師の方が
一日でも早く復活でき
るように働きかけてい
こうと思っています。
(会社員、弘前市)